津波警報等の視覚による伝達のあり方検討会（第３回）議事概要

気　　象　　庁
令和２年３月１３日

１．開催日時及び場所

日時：令和２年２月 13 日（木）10:00～12:00
場所：気象庁講堂

２．出席者

荒井　康善　一般財団法人全日本ろうあ連盟理事
石川　仁憲　公益財団法人日本ライフセービング協会常務理事
井上　征矢　筑波技術大学産業技術学部総合デザイン学科教授
圓道　眞理　神奈川県くらし安全防災局防災部災害対策課　課長
梶間　英次郎　静岡県下田市防災監
座長　田中　淳　東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長教授
小谷　敦　総務省消防庁国民保護・防災部防災課長
林　正道　内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（調査企画担当）

気象庁　土井地震火山部長、長谷川参事官、野村企画課長、青木管理課長、
東田防災企画室長、下山地震津波防災対策室長

３．議事

（１）津波警報等の視覚による伝達のあり方について

４．委員からの主な意見

別紙参照。

別紙

委員からの主な意見

（旗の色彩について）

○　赤色は危険なイメージが強いが、U旗は危険であるというイメージが全くない。認知度を広める、強く普及させることが必要。

○　オレンジ色の旗を使っている自治体は、アンケートの結果からも多い。何もないところから新しいものを入れるよりも、実際に運用している自治体において、旗を入れ替えるほうが難しいと想像する。いずれの旗になったとしても、認知度を上げるための高い努力が必要。

○　まず視認性という非常に生理的な基盤に立った結果ということを重記するということ。それから、国際性及び視覚の多様性に対して配慮するということ。これらの観点を踏まえて、検討会としてはU旗の色彩を提案することとする。

（報告書案について）

○　「はじめに」で「全国的には普及が進んでいない状況」と加筆していただいたが、色々な形で普及されている実態はあるため、「統一した普及が」に修正いただきたい。（資料３・p. 3）。

○　６ページのオレンジ旗、赤旗、U旗の使用比率を記載したグラフについて、文中の数字とグラフの数字が一致しておらず若干混乱しそうなので、「オレンジの旗：〇〇自治体、〇〇県」のように自治体数と県数を明確に書いていただきたい。（資料３・p. 6）。

○　注 7、8 の注釈文の読みやすさを考慮して、「感度特性が」を「または、その感度特性が」と修正いただきたい。（資料３・p. 11）

○　人の命を守るという観点において、大きな地震が起こった場合、津波警報を待たずに、空振りを恐れずに旗を振るという下田市のような運用がより望ましいのではないか。

○　運用に関する優良事例や工夫事例を収集し、広く展開することが望ましい。

また、運用については、「地域特性に応じて検討する」という記述が留意事項にあっても良いと思う。

○ 旗の使用について全国の自治体に丁寧に説明をしていくとのことだが、納得できないという自治体が出てくる可能性もある。強制力を持たせた、より強い表現で記載することはできないか。このルールはきちんと普及させることが必要と考えている。

○ 普及啓発の対象を聴覚障害の方だけでなく、市町村、あるいは一般の方々にも広げることが必要。多くの方が知ることが、声がけを通じて聴覚障害の方にも伝わり、また、ほかの言語の違う方々にも伝わる。

（報告書概要について）

○ 旗の大きさについて、国際信号旗の小サイズと中サイズの間ということで、検証の際に使用したサイズとなっている。U旗ならもう少し小さくても見えたかもしれないとの印象も持っており、切りのいい数字にしても良いのではないか。

○ 旗の大きさについて、特注で作らずに購入できるものが良いので、普通に、身近にあるものかどうかを確認するのが良い。

○ 既存の取組として、建物から旗を垂らしているところがある。その場合、よく使われる旗の比率に収まらないので、課題として考えておいた方が良い。

○ 防災を預かる内閣府としても、気象庁と連携して、市町村に対してしっかりと普及啓発を行っていきたい。また、避難誘導については、内閣府の方で定めた標識を使っていただき、避難誘導に今回の旗を使ってしまうと違うメッセージとなる懸念があるので、この点については注意しながら普及していきたい。

○ 留意事項等の部分に伝達そのものが義務ではないということを明記してもよいのではないか。また、２つ目の丸印で、「定めた旗と別の旗で津波警報等の伝達を行っている自治体」とあるところを、「伝達を行ってきた自治体」としてはどうか。

○ 留意事項等にある「移行期間」の後ろに「等」を入れていただきたい。

○　留意事項等の「周知・普及に努める」という文言が表現として少し弱い。もう少し強いフレーズを使うことはできないか。「周知・普及すること」とすることで納得する。

○　背景と課題で、いきなり青い破線内に「聴覚障害者」という文言が入るので、初めて見る人の理解が追い付かない。報告書の「はじめに」のところが文章として整っているので、この構成をベースに、まず聴覚障害者への配慮に関する現状を記載したうえで、青破線枠内の表現につなげてはどうか。

○　107cm×130cm という比率は国際信号旗の比率だが、実際に市販されている旗の比率は少し異なる。例えば、大きさの記載として「短辺が〇〇cm 以上」としてはどうか。

○　今回いただいた意見を踏まえて、事務局に報告書の修正をお願いする。その上で、内容について大きな所は一致したので、修正については座長一任とする。